

「第20回青森県原子力政策懇話会」議事概要

日時：平成22年7月22日（木）16:00～17:20

場所：アラスカ会館 地下1階「サファイア」

〔出席委員〕月永委員（座長）、石田（隆）委員、岩崎委員、植村委員、北村委員、
工藤委員、笹川委員、鈴木委員、須藤委員、田村委員、向井委員
〔欠席委員〕石田（瑞）委員、移川委員、小笠原委員、齊藤委員、佐藤委員、菅原委員、
田中委員、林委員、藤田委員、松永委員

〔出席者〕

海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック・検討会：山村主査、田辺委員

経済産業省資源エネルギー庁：森本原子力立地・核燃料サイクル産業課長

馬場青森原子力産業立地調整官事務所長

経済産業省原子力安全・保安院：中津放射性廃棄物規制課長

新井地域原子力安全統括管理官

電気事業連合会：久米専務理事

日本原燃株式会社：川井代表取締役社長

青森県：三村知事、蝦名副知事、阿部エネルギー総合対策局長、名古屋環境生活部長、

佐々木企画政策部長

- 1 開 会
- 2 知事あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 議 事

議事(1) 海外返還廃棄物に係る検討要請について

(2) 海外返還廃棄物の受入れについて

(3) 海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック・検討結果について

【説明】

- 海外返還廃棄物に係る検討要請について、経済産業省資源エネルギー庁より説明。
- 海外返還廃棄物の受入れについて、「資料1」に基づき電気事業連合会及び日本原燃株式会社より説明。
- 海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック・検討結果について、「資料2」に基づき海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック・検討会よりそれぞれ説明。

【主な質疑応答】

Q：資料2の29ページの図6-1、発生する廃棄物が、左側の四角の中に850本と、セメント固化体がいくら、雑個体がいくらと出ていて、ITPの試算ではガラス固化体約70本相当と書いてあるが、一番右、日本に返還されるのがガラス固化体約1,000本となっているのは、左側のガラス固化体850と70を足して、それを大まかにまるめて1,000というふうに解釈されているのか。

A（電気事業連合会）：850+70の920を約1,000本と記載している。

Q：資料2の13ページ最初の段落の「低レベル廃棄物については、電気事業者とアレバ社との間で」というのは、電気事業者というのはどこのことをさしているのか。

A（電気事業連合会）：フランスと海外委託契約を行っている各国の電気事業者を示しており、実際にはフランス・オランダとかスイスとかドイツとかベルギー等、あと日本の各電力である。日本は、電力9社+日本原電さんの10社である。

Q：資料2の8ページの表3-1、最大放射能濃度、最大というのは漏れた時の話なのか、それとも、そのままの状態に出てくる量の意味なのか。

A（電気事業連合会）：こちらに記載している最大放射能濃度という数字は、廃棄体の中に含まれている放射線を出す核種の量を記載している。1秒間に1つの放射線を出すものを1ベクレルという数字で記載しているが、1本あたりに入っている放射線を1秒間あたりに1本出すものがどのくらい入っているかということに記載しており、総量をまず記載している。高レベルと比べて10分の1、100分の1という桁の差があるが、十分遮蔽していく必要があるものとして扱っていく必要がある。ここに記載している放射線量は、入っているものの量である。

【主な意見】

○：ITPというのがかなり大事な概念になってくるが、これは正しいが、いろんな機会に、地域の方等に説明される時には、もう一段分かりやすく説明する配慮が必要である。

5 閉 会

(配布資料)

資料1 海外返還廃棄物の受入れの概要

【電気事業連合会、日本原燃株式会社】

資料2 【説明資料】海外返還廃棄物の受入れに係る安全性について

【海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック・検討会】

参考資料 国及び事業者からの確約書

【青森県】